

## 連載 データの解釈に役立つ統計の知識

～基本的な落とし穴とその対策～

## 第4回

サバイバー生存率：  
新しい予後指標

## サバイバー生存率とは？

がん患者さんの生存率はがん登録資料を用いた報告値の中でも関心の高い統計です。これまでは、5年生存率や10年生存率が報告されてきました。患者さんは診断時にこの指標を医師に提示されたり、ご自身で調べたりされ、5年または10年間、この値を参照して療養生活を送られてきました。例えば、5年生存率が20%だった場合、5年後まで自分が20%に入ったかどうかかわからず不安な日々を送ります。サバイバー生存率は、正確には条件付き生存率(Conditional Survival)といえます。通常の5年生存率は全対象者を含めた累積生存率であるのに対し、1年以上生存された方に限定してその後の5年生存率を算出、2年、3年・・・と診断からの経過年数ごとにその後の5年生存率を計算し直したものです。

最初に提示された5年生存率は全ての患者さんを含んでいるため、診断から年数が経過すると対象者が変化していくので、ご自身の経過年数に応じたその後の生存率を確認することができます。そこで、サバイバーの皆様に活用していただきたいという思いを込めて、サバイバー生存率と呼んでいます。

## どうやって算出するの？

サバイバー生存率の算出は非常にシンプルで、通常の5年生存率(相対生存率やネット生存率など)を算出する際の対象者をX年以上生存している方に限定し、その後の5年生存率(X+5年生存率)を算出します(図1)。

## サバイバー生存率とは？

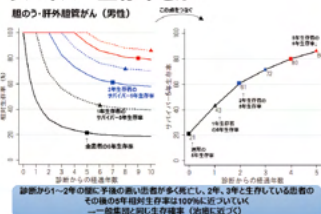


図1

診断から5年後のサバイバー5年生存率(その後の5年生存率)が算出できます。Period法を適用すると、より最新の情報を反映したサバイバー生存率を提供することができます。➤

## どこで見られるの？

先日公開されたJ-CIPウェブサイトのGlobalのページに、サバイバー生存率が概念的にわかりやすいインフォグラフィクス(図2)とともに、主要ながん種を性別に提供しています。今後、さらに詳細のサバイバー生存率についても公開していきますので、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。また、国立がん研究センターのがん情報サービスにおいてもグラフと表形式で公開されていますので、ご参照下さい。

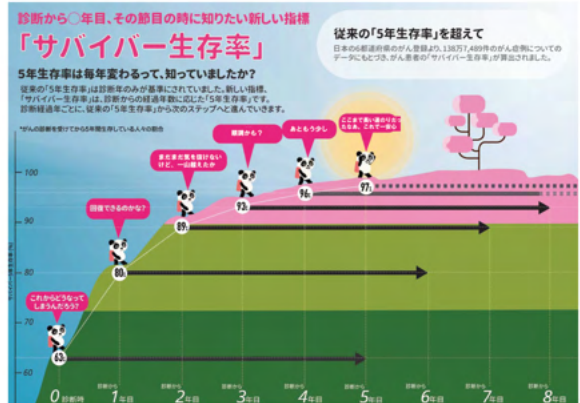


図2

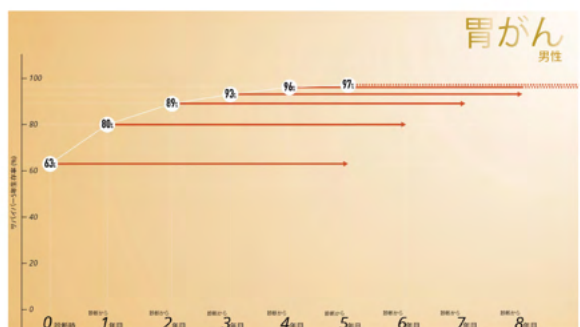


図3



サバイバー生存率(J-CIP Global)

<http://jacr.info/j-cip/global/conditional.html>


がん情報サービス(国立がん研究センター)

[https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/dl/index.html#survival](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/index.html#survival)


大阪医科大学

JACR専門委員 伊藤 ゆり